

各時刻（真太陽時）における新建築物や既存建物等の日影と日影時間は、以下に示す理論式を用いて求めた。

1 . 太陽の位置

太陽の位置は、高度 h と方位角 A を用いて次式より求めた。（図-1 参照）

$$\text{太陽高度} : \sin h = \sin \phi \cdot \sin \delta + \cos \phi \cdot \cos \delta \cdot \cos t$$

$$\text{方位角} : \sin A = \cos \delta \cdot \sin t / \cos h$$

h : 太陽高度（度）

A : 方位角（度）

ϕ : 事業予定地の緯度（度）

δ : 冬至日における太陽の赤緯（度）

t : 時角（度）

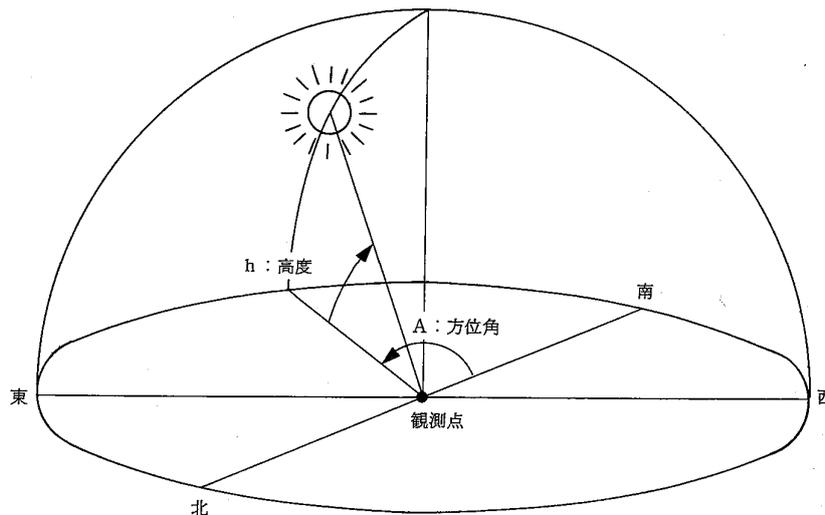


図-1 太陽高度と方位角

2 . 日影長計算

新建築物や既存建物等からの日影長は、次式より求めた。

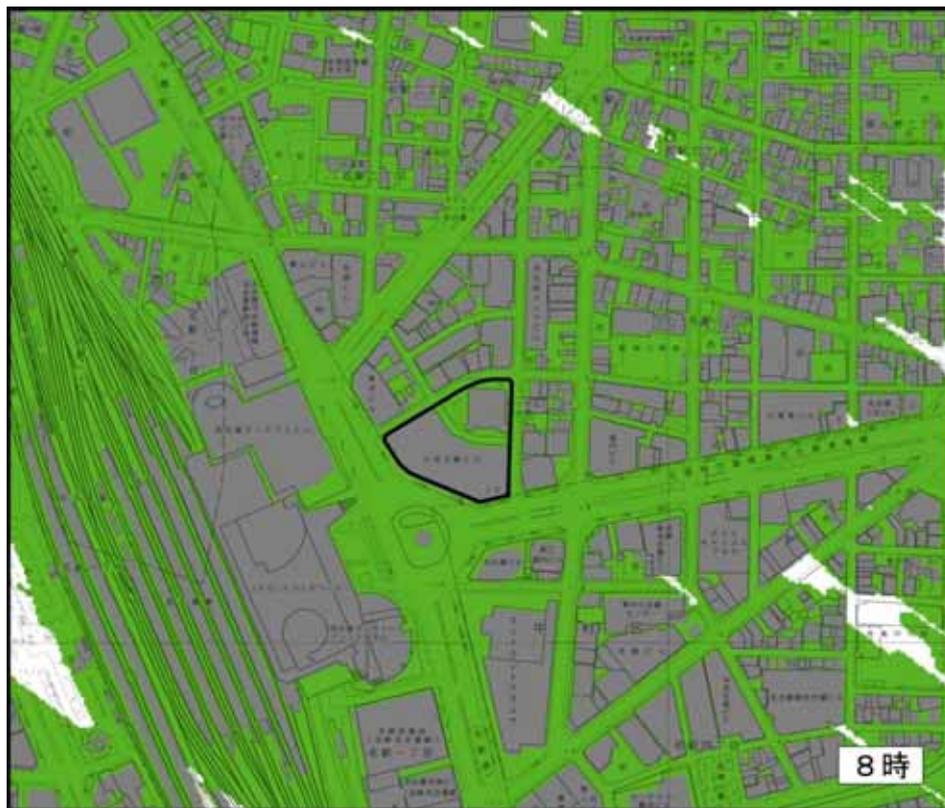
$$Z = H \cdot \cot h$$

Z : 日影長（m）

H : 建物と計算面の高低差（m）

h : 太陽高度（度）

事業予定地及びその周辺の既存建物等による現況の時刻別日影図（平均地盤面 + 4.0m）は、以下に示すとおりである。



名古屋プライムセントラルタワー及び愛知県産業労働センターの建物高さを修正したため、再予測を行った（以下の図についても同様）。



- : 事業予定地
- : 既存建物等
- : 日影

注) 時期は、冬至日である。



Scale 1:7,000





- : 事業予定地
- : 既存建物等
- : 日影

注) 時期は、冬至日である。



Scale 1:7,000





- : 事業予定地
- : 既存建物等
- : 日影

注) 時期は、冬至日である。



Scale 1:7,000





-  : 事業予定地
-  : 既存建物等
-  : 日影

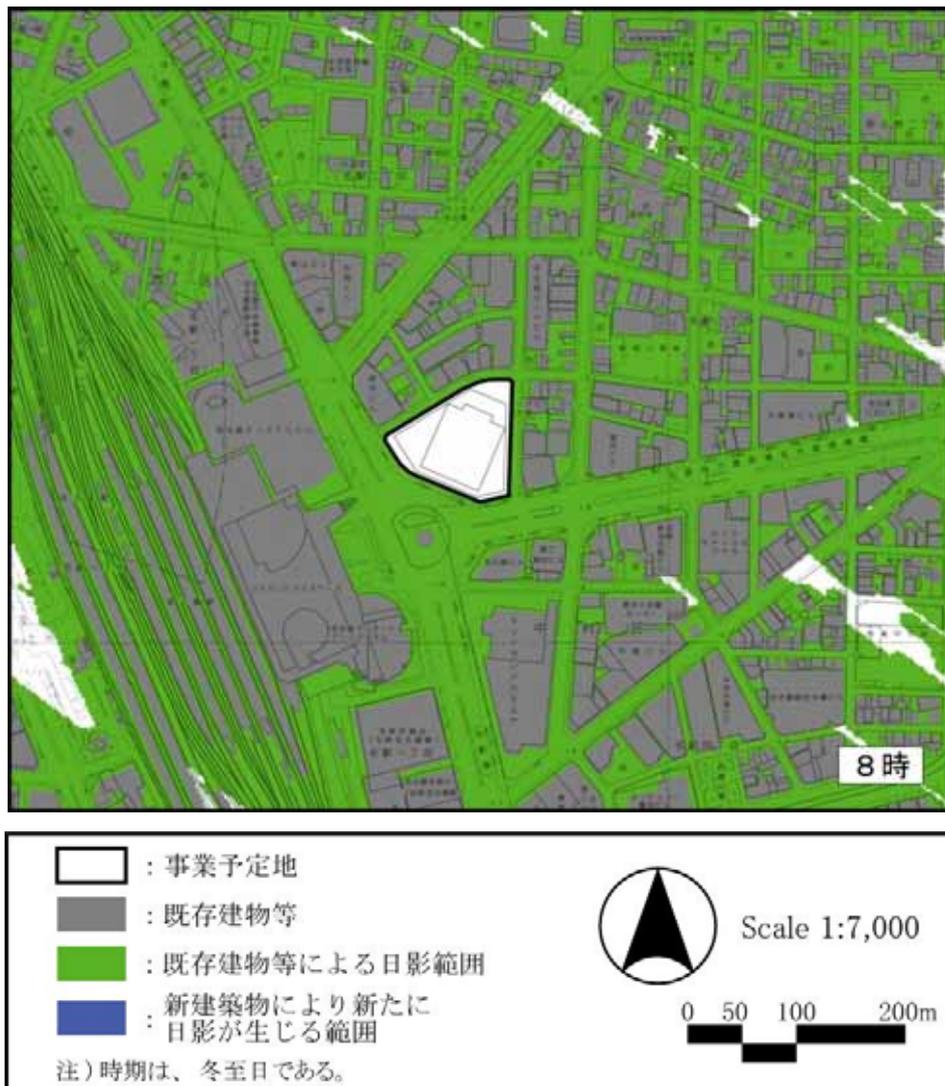
注) 時期は、冬至日である。



Scale 1:7,000



事業予定地周辺建物等を含む時刻別日影図(平均地盤面 + 4.0m)は、以下に示すとおりである。



事業計画の進捗により、新建築物の建物高さ及び建物形状を変更し、また、名古屋プライムセントラルタワー及び愛知県産業労働センターの建物高さを修正したため、再予測を行った(以下の図についても同様)。



	: 事業予定地	 Scale 1:7,000 
	: 既存建物等	
	: 既存建物等による日影範囲	
	: 新建築物により新たに日影が生じる範囲	

注) 時期は、冬至日である。



	: 事業予定地	 Scale 1:7,000  0 50 100 200m
	: 既存建物等	
	: 既存建物等による日影範囲	
	: 新建築物により新たに日影が生じる範囲	

注) 時期は、冬至日である。



	: 事業予定地	 Scale 1:7,000  0 50 100 200m
	: 既存建物等	
	: 既存建物等による日影範囲	
	: 新建築物により新たに日影が生じる範囲	

注) 時期は、冬至日である。



	: 事業予定地	 Scale 1:7,000 
	: 既存建物等	
	: 既存建物等による日影範囲	
	: 新建築物により新たに日影が生じる範囲	

注) 時期は、冬至日である。